

いわき民報
平市田町四八番地電三八一八番
千輝克己
日刊 但月曜を除く
定価一月二十円一部七十銭
発行所
いわき民報社

ふるさとを護る

沈設艦澤風秘話
赤い燈台の點滅する小名濱港の海底に永遠に沈む澤風一。あれが小野さんの乗った艦かね。と武裝を解いた澤風を指差し町民一同今更らながら今昔の感慨にふけるのだ。それは小名濱出身今は亡き元澤風艦長故海軍大佐小野四郎氏との奇しき因縁であり、また小野氏の身代りとして郷土の海に立派に沈む健氣げである澤風が立派に沈んで呉れ澤風に沈む人々の心は異境で死んだ小野氏の真魂を祈る心で一杯、特に幼な友達は氏の面影をしのいでいつまでも濱邊にたえずむのたえたりして澤風の秘話とは一

小名濱出身者

十六年宣々入港當時の思い出
戦時中の十六年六月初旬をとおしてかつての主夏の風を切つて小名濱人の郷土に沈むと云うへ入港した艦は澤風艦長は同ものであつた小名濱の町出身の海軍少佐小野四郎氏(當時三九)であつた。艦長として郷土の風を懐しの小名濱の港に歸つて訪問、樂へ沈めるのさうらうと隊なども練出して町民語つていた

奇しき因縁に 感無量

小野氏の實弟
小野氏の實弟に當る警流れ平和な小名濱には女教官柴田祐定氏は語

奇しき因縁に感無量
なものがあつた。しかし澤風も平和の海に沈んでお役に立

小名濱役場 署に明渡し
小名濱町役場は自治警署の署の新築まで署の建物として流用すること

上旬は赤字
高炭炭礦のスト崇る
常盤炭田上旬の赤字は、なま主力三

沈設
澤風十日入港
平和の海に防波堤としたが、東部管内は高炭

小名濱町 豫算町會
總額千九百萬圓
小名濱町の豫算千九百萬圓は、二十二年

今月中に再開
小名水素の整備成る
機械の整備のため暫く

労働者大會決る
内郷振出に五方部で
平地區労働協同會では會でその態度を決定す

算内示會
小名濱町二十三年度豫算内示會は十一日開き

平局もスト断行
十五日午前零時断行
さより挨拶宣言發表

即金
一般御買受
期日附御買受に願ひます

平局もスト断行
十五日午前零時断行
さより挨拶宣言發表

衛生管理者
の資格試験
十六日から實施
衛生管理者の資格試験

CONTAX
茂木
良心的の
附屬品
修理は
引伸
現像・機付

性病科
乾電池の二縣では先
學習手引一に連合軍
總司令部の恩恵によつ

平工業卒業式
平工業學校第六回並に
平市第二工業學校第三回

平局もスト断行
十五日午前零時断行
さより挨拶宣言發表

御既青年
の敬老會
内郷町御既青年會では

不在中に
衣類盗難
市内町無職上杉ヒデ

衛生管理者
の資格試験
十六日から實施
衛生管理者の資格試験

不在中に
衣類盗難
市内町無職上杉ヒデ

女子事務員募集
高等女學校卒業、二五才まで
平市から通勤出来る方

春の日歸りの旅
三月二十五日(木)出發
平市から通勤出来る方

雛人形陳列即賣會
おな染みの東京一流の人形問屋が出張即賣會

耳鼻咽喉科
高柳醫院
平市町電二二二

王扇
東京人形問屋
平市町電二二二

機械工具
ドリル、タップ、各種工入
平市町電二二二

